

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ベースリスト研究		授業形態 / 必・選	講義	必修
	学則上表記	ベースリスト研究	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ベースコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	バンド活動を基盤に、サポートやレコーディングなどプロとしての演奏活動を展開。 多様なアーティストのサポートやミュージカルの劇伴演奏を経験し、幅広い現場で実績を有する。				
授業概要					
時代を代表するベースリストを国内外を問わず取り上げ、サウンド、ブレイズ等を音楽の歴史、時代背景に紐付けながら研究する。					
到達目標					
各時代のベースリストの個性を理解することから、現在自分が影響を受けているベースリストのルーツを知り、より音楽的な理解を深め、自己のスタイルの確立に役立てる。					
授業計画・内容					
【前期】 1～3回目	Jazz 1 1950年代 エレクトリック・ベースが登場する以前のベースリスト ・チャールズ・ミンガス ・ロン・カーター ・レイ・ブラウン				
【前期】 4～5回目	Rock 1 1960年代 The Beatlesの登場以降のベースリスト ・ポール・マッカートニー・ジャック・ブルース ・ジョン・ポール・ジョーンズ				
【前期】 6～8回目	Funk 1 1960年代 Funk創世記のベースリスト ・ブーツイー・コリンズ ・ジョージ・ポーターjr ・ラリー・グラハム				
【前期】 9～11回目	Pops 1 1960年代 ヒット曲の演奏を請け負ったスタジオ・ベースリスト ・ジェームス・ジェマーソン ・キャロル・ケイ ・ジョン・オズボーン				
【前期】 12～14回目	Rock 2 1970年代 プログレッシブ・ロックのベースリスト ・クリス・スクワイア ・ゲディー・リー ・トニー・レヴィン				
【後期】 15～16回目	Jazz 2 エレクトリックベースでジャズの可能性を広げたベースリスト ・ジャコ・パストリアス ・スタンリー・クラーク				
【後期】 17～19回目	Funk 2 1970年代 ディスコ全盛期のベースリスト ・ヴァーダイン・ホワイト ・バーナード・エドワーズ ・ルイス・ジョンソン				
【後期】 20～22回目	Pops 2 1970年代 様々なアーティストの演奏を請け負ったスタジオ・ベースリスト ・チャック・レイニー ・アンソニー・ジャクソン ・リーランド・スクラー				
【後期】 23～25回目	Jazz 3 1980年代以降 モダン・ジャズ、フュージョンのベースリスト ・マーカス・ミラー ・ヴィクター・ウッテン				
【後期】 26～28回目	Rock 3 1980年代以降 ロックのベース奏法、サウンドを革新したベースリスト ・ビリー・シーン ・フィールディー ・アダム・ノリー・ゲットグッド				
【後期】 29～31回目	Funk 3 1980年代以降 ファンクとロックを融合させたベースリスト ・フリー ・スチュワート・ゼンダー				
【後期】 32～34回目 (後期試験)	Pops 3 J Popで数々の名演を残したベースリスト ・細野晴臣 ・亀田誠治 ・伊藤広規				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ベースインプロヴァイズ		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	ベースインプロヴァイズ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ベースコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	音楽理論を専門的に学び、基礎から応用に至る体系的な知識と演奏理解を習得。その後、各種アーティストのサポート演奏や自身の参加するグループでの活動を通じて、ライブ・制作の両面における幅広い実践経験を有する。				
授業概要					
様々なジャンルに対しての理解と研究。 ポップス、ロック、ファンク、ジャズ、ボサノヴァ、ラテンなどアドリブでフレーズ作成。 ブルースや定番セッション曲なども取り上げ、楽曲分析と実践。					
到達目標					
自分の得意ジャンルだけでなく、必要とされた時に対応できる力を養う。 どんな状況でも演奏できる知識を学ぶ。 演奏技術向上の為、様々なジャンルの分析を行い自身のアイデアとスキルを拡大させます。					
授業計画・内容					
【前期】 1～4回目	コードトレーニング ・サイクル5によるコードアルペジオ ・Simileによる4小説のコード進行のトレーニング				
【前期】 5～8回目	ブルース曲の分析 ・ベースラインのアイデアのバリエーションを増やし、オリジナルのラインの実践。 ・いくつかのアイデアによるソロの研究。				
【前期】 9～12回目	スケールとコードアルペジオ ・Simileによる4小説のコード進行のトレーニング ・8小説のコード進行のトレーニング1				
【前期】 13～16回目 (前期試験)	ロック、ポップス、ファンク曲の分析 ・ベースラインやリックのアイデアのバリエーションを増やす。 ・曲中のコード進行を使ってオリジナルのラインへの応用。				
【後期】 17～21回目	スケールとコードアルペジオ ・Simileによる8小説のコード進行のトレーニング2 ・16小説のコード進行のトレーニング				
【後期】 22～25回目	ジャズスタンダード曲の分析 4ビートのライン考察。 ・ベースラインのアイデアのバリエーションを増やし、オリジナルのライン作成。 ・いくつかのアイデアによるソロの研究。				
【後期】 26～30回目	ボサノヴァ、ラテン、レゲエ ・スタンダード曲の分析と研究。 ・代表曲の読譜、演奏				
【後期】 31～34回目 (後期試験)	セッション定番曲の考察と実践。 ・代表曲の演奏 ・オリジナルのアイデアのまとめ。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アンサンブルⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	アンサンブルⅡ		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	70回(140単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース、ヴォーカルコース シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	ソロプロジェクトとして作曲・レコーディング・マスタリングなどを自身で手がける。ライブ活動を並行しつつ動画や業界の知識を配信等の活動も行っている。					
授業概要						
コミュニケーションを第一に既成曲を題材に、互いに周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。 アンサンブルフェスティバル＝ライブを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンブルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑧課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。						
到達目標						
合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。						
授業計画・内容						
【前期】 1～30回目	アンサンブルとは何か 課題曲①～④ アンサンブルフェスティバルへ向けて					
31～32回目	アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。					
【前期】 33～34回目	半期のまとめ ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。					
【後期】 35～66回目	アンサンブルとは何か 課題曲①～④ アンサンブルフェスティバルへ向けて					
【後期】 67～68回目	アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。					
【後期】 69～70回目	半期のまとめ ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ベースベーシックⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ベースベーシックⅡ		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ベースコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	バンドでの活動を基盤に、各種アーティストのライブやレコーディングに多数参加し、幅広い現場で実績を積む。加えて、楽器・機材メーカーのモニターとして製品理解や運用に関する知見も有する。					
授業概要						
1年生の授業で学んだ基本的な技術や知識の向上をめざします。クリックやドラム音源を使用したリズムトレーニング、コードやスケールなどの理論の解釈と活用法等、ベーシストとして必要なスキルを総合的に学びます。						
到達目標						
中級、上級フレーズを通じての表現力、フィジカルの向上。 現場で必要なテクニック、マインドを学びます。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	ベースラインの作り方① ・ルートにコードトーンを加えたベースライン。 ・ルートに経過音を加えたベースライン。					
【前期】 5～8回目	ベースラインの作り方② ・分数コードを使ったコード進行。 ・ダイアトニックコードの活用法。					
【前期】 9～12回目	ベースラインの作り方③ ・メジャーペンタトニックスケールの活用法。 ・マイナーペンタトニックスケールの活用法。					
【前期】 13～16回目 (前期試験)	ベースラインの作り方④ ・ペンタトニックスケール+テンションノート。 ・ペンタトニックスケール+ブルーノート。					
【後期】 17～21回目	ベースラインの作り方⑤ ・チャーチモードスケールの活用法。 ・シャッフル等の3連符系のリズムへのアプローチ法。					
【後期】 22～25回目	ベースラインの作り方⑥ ・コード弾きやダブルストップ等の和音を弾く奏法。 ・ハーモニクスを加えた奏法。					
【後期】 26～30回目	ピッキング奏法 ・ダウンピッキングで音のツブを揃えてビートをキープする練習。 ・オルタネイトピッキングで16ビートのリズムや速いフレーズにも対応出来るようになる練習。					
【後期】 31～35回目 (後期試験)	スラップ奏法 ・サムピング&ブルのコンビネーションを使った練習。 ・レフトハンドヒッピングミュート等のゴーストノートを使ったフレーズ練習。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	DAW II		授業形態 / 必・選	講義		必修
	学則上表記	DAW II		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース・ベースコース・ドラムコース・シンガーソングライターコース ・ギターヴォーカルコース・ヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	ギタリストとして様々なアーティストのサポートでライブやレコーディングに参加。また楽曲の作編曲、ミックスマスタリングなど自身で行うなど幅広く活動している。					
授業概要						
DAWでのトラック制作の方法の習得および技術の向上、他コースとのコミュニケーションや各楽器の違いや知るべき知識の習得。						
到達目標						
PCの操作法を学び、現代音楽の制作が出来るように(自分で創るオリジナリティを曲や音で活かせるように)なる知識、実践方法を学ぶ。他コースと関わり、合同での「作曲」や「レコーディング」の実現。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	PCの操作方法の指導、音楽制作ソフトの操作方法の指導 ・PC、DAWの基礎知識(起動/USBorGoogleDriveへの保存) ・オーディオインターフェースの役割と使用、接続方法 ・簡単なループを組み合わせた制作法を学ぶ					
【前期】 6～10回目	各楽器の理解・プログラミング法(打ち込み)の指導 ・各作業用ツールの説明 ・4分音符(8分・16分・3連符・6連符)のクオンタイズの説明と理解					
【前期】 11～20回目	ドラム、ベース、キーボード、シンセサイザー等各楽器の仕組みの理解 ・各楽器を理解し、4小節(16小節＋α)の課題曲の作成					
【前期】 16～17回目	「前期試験対策」 ・PC操作、各楽器の理解、プログラミング(MIDI打ち込み)、課題曲の作成の総復習					
【後期】 18～25回目	各楽器にフォーカスを合わせた課題曲の作成 ・1コーラスを目標に各楽器がメインになったジャンルの課題曲を複数作成 ・ボーカル、ギター、ベースなどの生データのレコーディングの仕組み、実践 ・エフェクト処理(アンプシミュレーター、パンニング、コンプレッサー、エコー、ディレイ) ・マイクの種類やファンタム電源等、レコーディング機材の知識を学ぶ 各楽器にフォーカスを合わせたオリジナル曲の合同作成 ・1コーラス(フルコーラス)を目標にオリジナル曲の合同作成					
【後期】 26～30回目	ツミックスのパウンス作業 ・エフェクト処理を使い、ミックスに必要な知識を学ぶ ・エフェクト(プラグイン)を使用しマスタリングの実践(AI含む)					
【後期】 31～35回目	「後期試験対策」 ・生データのレコーディング、ミックス・マスタリングを使用した課題曲の作成の総復習					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ベースアドバンス		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ベースアドバンス	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ベースコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験13年 学生時代に複数のコンテストで最優秀賞を受賞。アニメ作品やゲーム音楽公式バンド、ゲーム音楽、劇伴などの有名アーティストのライブ、ツアー、レコーディングに参加。					
授業概要						
・コード理論を駆使したスコアリーディングの習得 ・5弦ベースやフレットレスベースの使用方法						
到達目標						
・実践的なスコアの理解力を習得 ・5弦ベースやフレットレスベースを使って表現力の幅を広げる						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	5弦ベース ・LowB弦を使ったスケール、アルペジオ練習 ・LowB弦を使った8beat、16beatフレーズ					
【前期】 6～9回目	5弦ベース ・LowB弦を使った課題曲(Rock) ・LowB弦を使った課題曲(Pops)					
【前期】 10～13回目	フレットレスベース ・スケール練習 ・イヤートレーニング					
【前期】 14～18回目	フレットレスベース ・課題曲(セッション曲、ジャズスタンダード曲)					
【後期】 19～22回目	理論復習Ⅰ ・ダイアトニックコードを使った基礎トレーニング ・メジャースケール、ナチュラルマイナースケールの基礎トレーニング					
【後期】 23～27回目	理論復習Ⅱ ・ハーモニックマイナー、メロディックマイナースケールの基礎トレーニング ・チャーチモード復習					
【後期】 28～31回目	ノンダイアトニックコード ・マスター譜のアナライズ ・課題曲の演奏					
【後期】 32～35回目	ディグリー ・ディグリーを使ったフレーズの展開方法					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽芸能スタッフ科

授業科目名	ベシストパフォーマンスⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	ベシストパフォーマンスⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ベースコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	バンドを軸とした継続的な演奏活動を展開。メジャーデビューを経て、自身の活動と並行しながら多様なアーティストのライブ・レコーディングサポートにも従事している。舞台・演技分野の研鑽にも取り組み、表現力向上を図っている。				
授業概要					
ステージパフォーマンスの向上、仕事のパフォーマンス向上を目的とする。 ステージングでの動き方魅せ方。演奏以外の仕事での必要知識、社会的常識や運営、制作、DAW操作などのミュージシャン・アーティストとして必要な事を学ぶ。 また、好きなジャンルにだけ囚われない多角的に見れる感性育成。					
到達目標					
人から見られてる意識を持ちアーティスト、ミュージシャンというものは一人では成り立たないという事を認識し、円滑にLIVEステージ、制作を行うためには何が必要か。 お客様や関わる人と気持ちよく仕事するにはどうしたら良いかという思考回路を広げ、以下に示す知識・スキルの習得。 ・セルフプロデュース・ブランディング、SNSの活用、音楽業界を中心とした対人マナー・運営・バンド、自己の運営に必要な知識、ライブに必要な知識、コミュニケーション力・DAWを使用した制作全般。					
授業計画・内容					
【前期】 1～4回目	個人の前期での目標設定 ・演奏楽曲決めやパフォーマンスに必要な要素の学習・客観視されたチューニングの重要性、クリックに合わせた練習の必要性 ・過去に行われた学内発表会にて注意、学習すべきポイントの整理。(服装、音色、音質、セッティングの速さ等、動画視聴)				
【前期】 5～8回目	授業内発表会の演奏楽曲決めと対策 ・自己分析から曲決め、ジャンル、テンポ、演奏スタイル、使用アンプを含むを決定する。 ・自分で購入したエフェクター使い方や種類を理解して、自身の楽曲を更に彩らせる為の研究。 ・購入したエフェクターが無い場合の対処法 ・ライブハウスやスタジオでよく目にするアンプとの使い方、サウンドメイキング法の伝授				
【前期】 9～12回目	授業内発表会の反省と次回発表会の対策 ・前回の反省会や今後への課題、見直し・音源に合わせてコードの習得、インプロヴァイズ(アドリブ)の練習。 ・ステージパフォーマンスにおいての見せ方以外に、曲での見せ方間かせ方の理解(曲の際立つ部分等、理由や理論を混ぜて解析)				
【前期】 13～16回目 (前期試験)	楽曲に必要な主要スケールと実際のイベントを想定した緊張感の中で演奏する。 ・実際に動画を録り、「自分を客観視する力」を養う ・演奏楽曲に使われるの理解(反復) ・自身のパフォーマンスにて演奏する曲の披露、講師から学生へのアドバイス等				
【後期】 17～21回目	個人の後期での目標設定 ・自由曲の演奏楽曲決めやパフォーマンスに必要な要素の確認、客観視されたチューニングの重要性、クリックに合わせた練習の必要性 ・過去に行われた授業内発表会にて注意、学習すべきポイントの整理。(服装、音色、音質、セッティングの速さ等、動画視聴)				
【後期】 22～25回目	イベントの反省/過去のヒットソングを分析 ・発表会の反省会や今後への課題、見直し				
【後期】 26～30回目	ステージパフォーマンスにおいての見せ方以外に、曲での見せ方間かせ方の理解(曲の際立つ部分等、理由や理論を混ぜて解析) ・音源に合わせてコードの習得、インプロヴァイズ(アドリブ)の練習。				
【後期】 31～35回目 (後期試験)	授業内に実践発表と卒業後の対策の開始 ・実際に自身の楽曲に合わせて授業で演奏し、それを動画に撮影して全員で改善点や良い点をそれぞれ探しライブに向けてのクオリティアップ ・実際に講師の前で演奏してもらい、2年間で学んだもののすべて(演奏や自己プロデュース能力等)を披露				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ベースアナライズ		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	ベースアナライズ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ベースコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	著名アーティスト主導のバンドへの参加や大規模ツアー帯同を経て、複数の音楽プロジェクトに参画。現在は、ユニット活動と並行し、アニメ・ゲーム音楽を中心とした多様な制作・演奏案件に携わり、幅広い分野で実績を有する。				
授業概要					
近年の商業曲(2000年以降)のアナライズ、フレーズの分析 ポップス、ロックにおいての上級テクニックの習得					
到達目標					
近現代の曲において演奏に必要な知識とテクニックを学ぶ。					
授業計画・内容					
【前期】 1～4回目	2000年以降のアニメソングや、ロック、ポップス系のアニメタイアップ曲を中心にベースラインを紹介 ・ベース以外の楽器、コード、メロディーを分析し、ベースラインの効果的なポジショニングと構成を学ぶ。 ・テンポを下げてフレーズの仕組みを分析				
【前期】 5～8回目	・フレーズを正確に演奏するための運指練習(メカニカルトレーニング) ・ユニゾンフレーズを分析し、スムーズなフィンガリングを習得する。				
【前期】 9～12回目	・複雑なリフやリズムを正確に弾く為の練習(リズムトレーニング) ・多弦ベースやドロップチューニングしたベースを使用する楽曲を取り上げ、特性を理解する。				
【前期】 13～16回目 (前期試験)	・前期に取り上げた課題曲の中から選曲し、総合的な練習 ・課題曲を実際の楽曲のテンポでワンコーラス以上を目安に演奏できるよう訓練する。				
【後期】 17～21回目	・劇伴音楽(ゲームのフィールド曲など)を題材に、情景に合わせた音色の表現力を身に付ける。 ・ベースソロやメロディにおける効果的なニュアンス(ビブラート、スライド)の練習				
【後期】 22～25回目	・ゲームや2.5次元、ボカロ曲などを中心にベースラインを紹介 ・コンピューターにより打ち込みで作られたフレーズなど、人間では難易度の高いフレーズをアレンジし、解決する力を身につける。				
【後期】 26～30回目	・3フィンガー、ライトハンド、タッピング、ロータリー奏法などテクニカルな奏法技術を学ぶ。 ・ロック、ポップスにおけるアレンジ上でのジャズやラテンのフレーズを研究する。				
【後期】 31～35回目 (後期試験)	・後期に取り上げた課題曲の中から選曲し、総合的な練習 ・課題曲を実際の楽曲のテンポでワンコーラス以上を目安に演奏できるよう訓練する。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	コード譜応用		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	コード譜応用	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	1980年代より音楽活動を開始し、サポート演奏やレコーディング、バンド・プロジェクトへの参加など幅広い分野で経験を積む。現在もライブ活動や楽曲制作、編曲をはじめ、多様な音楽活動に加え、メディア分野でも活動を展開している。					
授業概要						
PCでの楽譜作成ソフト『MuseScore』で譜面作成し、その譜面を用いたアンサンブル演奏を交互に行う授業。						
到達目標						
正確なマスター譜及びパート譜を作成する技術と読譜力。各楽器の特性を理解し、3パートにおける編曲力及びディレクションする能力。実奏を通じて譜面の完成度を自ら評価・修正できるスキルの3点習得を目指す。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識の復習、確認。 ・五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど。 ・楽譜作成ソフト『Musescore』の基礎操作方法。					
【前期】 5～8回目	講義教室においてスタンダードな12小節『Blues』のマスター譜作成。 ・組段、レイアウトの調整、反復記号、各種記号の配置、コードの打ち込み方を確認。 ・アンサンブル教室において作成した譜面を使用して実演。					
【前期】 9～12回目	講義教室において各パートの記譜の知識を『Musescore』を使用して共有。 ・前回譜面作成して実演した『Blues』のマスター譜を各パート譜に書き換える。 ・各パート譜の作成スキルの共有。					
【前期】 13～16回目 (前期試験)	『各ジャンルのスタンダード曲の譜面を作成し、実際にアンサンブルをして学ぶ①Pops編』 ・1, 2週目、講義教室で各ジャンルの代表曲の譜面を『Musescore』で自ら作成 ・3, 4週目、アンサンブル教室で3コースで合奏					
【後期】 17～21回目	『各ジャンルのスタンダード曲の譜面を作成し、実際にアンサンブルをして学ぶ②Rock編』 ・1, 2週目、講義教室で各ジャンルの代表曲の譜面を『Musescore』で自ら作成 ・3, 4週目、アンサンブル教室で3コースで合奏する。					
【後期】 22～25回目	『各ジャンルのスタンダード曲の譜面を作成し、実際にアンサンブルをして学ぶ③Funk/Soul編』 ・1, 2週目、講義教室で各ジャンルの代表曲の譜面を『Musescore』で自ら作成 ・3, 4週目、アンサンブル教室で3コースで合奏する。					
【後期】 26～30回目	『各ジャンルのスタンダード曲の譜面を作成し、実際にアンサンブルをして学ぶ④Jazz/Fusion編』 ・1, 2週目、講義教室で各ジャンルの代表曲の譜面を『Musescore』で自ら作成 ・3, 4週目、アンサンブル教室で3コースで合奏する。					
【後期】 31～35回目 (後期試験)	『各ジャンルのスタンダード曲の譜面を作成し、実際にアンサンブルをして学ぶ⑤Latin編』 ・1, 2週目、講義教室で各ジャンルの代表曲の譜面を『Musescore』で自ら作成 ・3, 4週目、アンサンブル教室で3コースで合奏する。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アーティスト実地演習Ⅱ		授業形態 / 必・選	演習	必修	
	学則上表記	アーティスト実地演習Ⅱ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。					
授業概要						
卒業後の進路活動について学ぶ。 それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。						
到達目標						
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。						
授業計画・内容						
【前期】 1～6回目	アーティスト特別セミナー					
【前期】 7～14回目	音楽業界スタッフによる講義。					
【前期】 15～20回目	各コース発表会					
【後期】 21～25回目	音楽業界スタッフによる講義。					
【後期】 26～30回目	各コース成果物提出					
【後期】 31～35回目	各コース発表会					
【後期】 36～40回目	コース別ファイナルイベント					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	分野別講座Ⅱ		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	分野別講座Ⅱ		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経験5年以上の各科目担当講師。現場での豊富な経験と技術への深い知見をもとに次世代の育成に取り組む。					
授業概要						
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。						
到達目標						
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～2回目	キャリアプランニング					
【前期】 3～14回目	ミュージックビジネス					
【後期】 15～28回目	ミュージックビジネス					
【後期】 29～33回目	ビジネス文書					
【後期】 34～35回目	所得税と源泉徴収・確定申告					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						